

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4092000100		
法人名	株式会社 伸宅		
事業所名	グループホーム 生き生き参番館		
所在地	福岡県柳川市三橋町下百町217番地5 (電話)0944-72-7333		
自己評価作成日	令和 2 年 12 月 26 日	評価結果確定日	令和 3 年 3 月 15 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

住み慣れた柳川で利用者様らしい生活を送って頂ける様に理念を掲げ、職員一同、極め細やかで質の高いケアを目指している。ご家族とは折に触れて会話をしたり連絡を行い、近況や状態などを伝えている。訪問看護との医療連携では、急変時の対応や重度化しても安心して生活して出来る様に支援を行っている。また、地域の一員として毎朝、施設周辺の歩道の清掃を行い、散歩してある方と挨拶や会話を交わしているが、高校生にも挨拶をしてくれる人がある。本年はコロナ禍により地域の行事の縮小や中止、また、継続して介護実習を受け入れていた高校が中止を余儀されたりと社会との繋がりが希薄になった一年だった。しかし、本質のケアを日々高めて行くために、会議や申し送りの場などを通じて、ケアの平準化、対応の仕方、言葉遣い、留意点などについて色々な角度から伝えている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kai gokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	令和 3 年 1 月 20 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所周围には私鉄主要駅、国道、ドラッグストア、ショッピングモール、ホテル、マンション等がある区画整理された地域にある。ペンション風の外装の2階建てである。事業所の隣には神社があり昔ながらの風情を感じる一画になっている。事業所独自の理念があり、介護をするにあたり利用者・家族に寄り添う事を原則とし日々のケアに取り組んでいる。特に身体拘束のなかのストレッチロックに対する研修には力を入れており、生活のなかで忙しく時間に追われている時について言葉で抑制をすることがないように管理者職員一同、ケアの質の向上を目指して取り組んでいる。外部との関わりが薄くなる中、施設内で利用者に楽しんでもらうような「おやつ作り」を数回取り入れるなど工夫をしている。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は目につく所に掲示し、スタッフ全員が内容を理解し共有して実践に繋げている。相談に見えた方や入居を希望される方にも理念について説明を行っている。	事業所には4つの理念があり、全体会議、申し送り時、気づいた時にその都度、管理者が話をしている。地域の方や家族と会う機会や話す機会が持てるようなど、職員も理念に沿った実践を行うことを日々、努力をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として町内会に加入し、月末の日曜日には公民館・お宮掃除にスタッフが交代で参加し、地域の人との交流を行っている。またデッキで日光浴をしている時に、地域の方が通り掛かれる時には挨拶を交わしている。	町内会に参加をしている、事業所だよりは玄関に貼り来客が見られるようにしている。コロナ禍以前は毎月のお宮掃除など職員が参加をしていたが、現在は地域の行事は中止になり、事業者主催の行事も外部者が不参加の形で行っている状況である。そのよう中でも玄関先に地域の方が野菜をもって来てくれることがあった。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年は新型コロナウイルスにより、施設では面会の自粛を行い、外出も出来ない状況になり、毎年、依頼を受けていた高等学校福祉学科の実習も中止になり、地域の方や高校生との交流も出来なかった。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、利用状況、行事報告、内部研修、外部研修、その他、必要事項を報告し委員の方と質疑応答を行っている。提案などについて、サービスの向上に繋げている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催をしている、利用者は重度化が進んでおり、参加は困難になっている。利用者の家族、市職員、包括支援センター、区長、民生委員の参加がある、コロナ禍の下での面会方法など質問があり対応の説明をしている、提案があった時は、検討を行いサービスの向上につなげるようにしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議委員の市役所高齢者福祉係の方、包括支援センターの方には運営推進会議の場で交流を図っている。また、福祉係の方とはキャラバンメイトでも交流の機会を持っている。生活保護の方については、保護係の担当者とは、月1回は顔を合わせて確認を行っている。	市町村とは空き情報の問い合わせがあったり、欠員が出た時の相談など電話等で行っている。保護課とは毎月担当者と連絡を取り、年金についても相談する機会がある、感染予防のため直接窓口へ行くことは減っているが協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議の場で身体拘束の研修会や、身体拘束適正化検討委員会での会議内容を伝えて理解を深めている。玄関にはチャイムが鳴るセンサーを設置し、センサーが鳴れば直ぐに確認を行っている。見守り担当者を明確にする為に赤色の紐を肩から掛け、時間帯により交代している。	日中、居室・玄関・デッキへの出入りに施錠はしていない。玄関にはセンサーが設置されて人が出入りするとチャイムが鳴るようになっている。職員以外の出入りがあった時は分かるようにしておりすぐに玄関へ駆けつけるようにしている。落ち着かない利用者とは、一緒に動くなど対応をとっている。地域の人にも見守りや声掛けをしてもらえる関係ができています。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	全体会議の場で高齢者虐待について研修を行い、身体の虐待は勿論の事、言葉の虐待においてもスタッフ一人ひとりが、しっかり自覚を持って、虐待の言葉と確認した時には、その場で注意をしている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体会議の場で権利擁護の研修を行い、再確認を行っている。玄関には成年後見人制度の冊子を置いて情報提供をしている。利用者やご家族に、当方から説明する事は無いが、現在、施設には1名の方に後見人が付かれ、身寄りがなく必要により連絡を取り合い支援を行っている。	成年後見制度、日常生活自立支援事業については利用者家族に契約時、必要に応じて説明を行っている。職員自身が相談があった時に説明できるようになり、管理者へつなげる事ができるように内部研修を受け制度の理解を深める努力をしている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書については、わかり易く丁寧に説明を行っている。料金改定時は別途、書式により改訂前と改訂後がわかり易く記述したものを作成し、利用者、ご家族に説明を行い、了承を得てから署名、捺印を頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来館された時には、状況や状態などについて説明を行い、利用者やご家族から意見や要望を出された時には、直ぐに検討を行い対応している。外部者には運営推進会議を通じて各委員に説明し、意見などを伺っている。	利用者が日常的に思いや意見を伝えられるように管理者、職員は声掛けを常に行っている。利用者からの希望でおやつ作りを行っている。運営推進会議へ参加や、事業所が状況報告時に、個別に家族と話をする機会もある。この時に通院から往診へ変更して家族の負担が軽減されたこともあった。第三者相談窓口の資料は玄関に設置されている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日、朝の申し送り時や全体会議時には、意見を聞く機会を設けている。日常から意見を聞きおり、直ぐに実行が必要な事案については、その場でスタッフに伝えたり、公休者には連絡帳で確認出来る様にしている。	自己評価については職員全員に割り振りをして記入をしてもらい、まとめを行った後に再度、確認を行っている。勉強会・全体会議・日頃から職員が相談しやすい雰囲気を作っている。転倒防止の為にセンサー導入も職員からの意見で導入をされ転倒防止に役立っている	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフが向上心を持って働けるように努めている。年に2回自己評価を行い、目標を持つ事でケアの向上に繋がるようにしている。また希望休や有給を利用する事で、働きやすい職場の環境作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用時、性別・年齢・宗教など個人的な事は重視せず、既婚者や出産育児中のスタッフなど誰でも安心して働けるように職場の環境や条件の整備に努めている。また社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるように配慮している。	採用に関しては本部で行うことも事業所が行う事もあるが性別、年齢等を理由に排除する事はない。職員の定年もなく家庭の事情を考慮した勤務時間の調整や資格取得のための研修参加、産休等の取得もでき、誰もが安心して働ける環境作りを目指している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権尊重は介護における基本と捉えている。毎月実施している、全体会議の中で人権尊重に対する研修会を開いたり、日々の申し送り中でも職員全員が自らの事として捉え、考える機会を設けている。	利用者のみならず職員の人権を守るための人権教育（女性問題・子供・高齢者・障がい者・外国人・同和問題など）の内部研修を行い職員は参加をして人権について学び、啓発活動に取り組んでいる。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフの経験年数や技術に応じて外部研修を選定し参加している。研修内容は出張復命書により、目的・用件、経過・結果、意見・所感について記述し、内容については精査し、指導を行う事もある。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスにより、他事業所の方と交流は殆ど出来なかった。直に会う機会は減少したが、今までのネットワークにより、電話などでやり取りを行う事で関係性は保たれている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学や訪問していただき、本人と面談を行い、アセスメントを踏まえた上でコミュニケーションをとりながら不安、要望等を伺い、本人との関わりを多く持ち安心していただけるよう努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と面談を行い、困っている事や要望などをお聞きし、ご家族の思いに添うよう、その要望を職員で共有している。また、こまめに本人の様子を報告し、ご家族との関係作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様にとって何が本人、ご家族と一緒に考え、小規模多機能やデイサービス、他施設の見学、説明も行き、幅広く情報提供を行い、選択肢を広げるよう努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と一緒に洗濯たみや食事の片づけ（茶碗拭き）等を行い、共に生活していることを念頭に置き、相互関係の元、日々生活の楽しみ、喜びを共感する様努めている。		
21	—	○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にはご家族へ本人の状態を報告し、必要に応じて支援の提案を行い、ご家族の意向に沿って、利用者様を共に支えていけるようにしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や親しい方との面会が困難である場合は、手紙のやりとりや電話で会話していただき、馴染みの人とのつながりを維持できるよう努めている。馴染みの場所へは、感染予防の為、外出控えており出来ていない。	職員は利用者とは十分に話をする機会を作り、これまでのなじみの場所（昔行っていた店・生まれた場所、自宅への外出等）や人（旧友との面会、孫との会話など）に会いに行く支援を行い今まで大切にしてきた関係が途切れないように支援を行っているが、昨年は感染予防のため外出ができなかった。電話で話をしてもらうなど会話をしてもらう支援を行っている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格や相性に配慮し、また要望等を取り入れ、座っていただく席の位置を決め、利用者同士支え合い、楽しく過ごせるよう支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、ご家族から近況報告を得たり、入院で退所された方にも、いつでもまた相談に来ていただけるようお声かけをしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様と関わる中で得た情報を記録に残し、情報を共有し利用者様の思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難な方は、表情や仕草等でくみ取り、職員間で検討し本人の思いに寄り添えるよう努めている。	入居の際の面談で、家族から利用者様の情報を、78521として、「利用者基本情報」にまとめ記録、職員の情報共有に努めている。日頃から、本人・ご家族とのコミュニケーションを取る中で得た情報は「申し送りノート」に記入して追加する。意思疎通の難しい方は日々の生活での表情や仕草などを観察し、意向の確認に努めている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される時には、ご家族より情報を得ておりフェイスシートに記入し情報の共有に努めている。また、本人やご家族とのコミュニケーションをとる中で新しく得た情報は申し送りノートに記入し、随時追加して共有している。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態変化を観察し記録に残したり、月に1回の会議で一人ひとりの現状報告を行い、情報を共有し職員全体で把握している。又、一人ひとりの身体状況を見ながら休んで頂いたり、洗濯たみ等のお手伝いをお願いしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族からの思いや意向を尊重した上で、主治医や連携している訪問看護とも話し合いを行い、職員を踏まえ、それぞれの意見を取り入れて介護計画を作成している。	職員1人に利用者2名程度担当をして、3ヶ月毎にモニタリングを行っている。月1回の会議で現状報告をして、医師や訪問看護師に相談し意見を頂き、家族から意見・要望を聞き取り、介護計画を作成している。達成状況をモニタリング評価表に実施状況を記録してチェックしている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には、日々の生活状況を記入して職員間で情報を共有し、利用者様の生活や心身の状態を把握するようにしており、実践や介護計画に反映しながら見直しもしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様やご家族から、日々変化するニーズに対して出来る限り、柔軟に対応させていただいている。また、後見人がいる方やご家族が遠方に居られる方には、必要物品(衣類等)の購入代行を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	在宅生活をされていた時の友人の方の面会や近隣の神社に参拝しに行ったり、日頃の散歩で、ご近所の方と挨拶を交わし楽しみのある生活ができるよう支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に協力医の説明を行い、今までのかかりつけ医を継続するか本人やご家族に選択してもらっている。ご家族が付き添い受診される場合には、日々の状態を手紙にし情報提供を行っている。職員間や医療機関との連携を図りながら、適切な医療を受けられる様に支援している。	訪問診療で提携医を利用されている方は、月2回の訪問診療、随時訪問歯科診療がある。他科受診は利用者や家族の希望を大切にし、家族より同行が困難な場合は職員が送迎支援を行っている。家族支援で受診の場合は日々の健康観察状況を書面を渡して、情報の共有を行っている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日々の関わりの中での変化や気づきを看護師や医療連携している訪問看護に伝え、情報交換を密に行い、個々の利用者様が適切な看護の支援を受けられるようにしている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院する際、利用者様やご家族がストレスを軽減できるよう相談しながら、本人に関する情報の提供やケアについて話し合っている。退院時はスムーズに退院できるように、病院、ご家族と話し合い関係作りを努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	段階ごとにご家族やかかりつけ医との意向を確認し対応を行い、利用者様を尊重しながら支援を行っている。全職員で話し合い、最期までその人らしい生活ができるよう支援している。	「重度化した場合の対応に係る指針」を作成して、入居時に看取りに関する指針を本人・家族に説明を行ったうえで、重度化やターミナル期に近づいた場合、家族の意向を大切にしながら、状況変化に応じて、意思を確認し同意書を得ている。職員の看取り研修を行って、職員全員が情報の共有と知識の向上に努めている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の状態の急変や事故発生等、予測できる所は職員、医療関係者と連携を取り、実際の場面で活かせる様、勉強会などを行い、知識や技術を職員で深めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火・避難訓練を消防吏員の派遣を伴う総合訓練を1回、施設のみで行う部分訓練を1回の年2回訓練を行っている。新規の職員には、実施方法を習得させる為に、初期消火や通報の役割を持たせている。訓練後には消防署より、消防訓練実施結果について全体の評価、推奨事項や反省点を挙げて頂き、記録して今後に活かしている。	防災・洪水マニュアルを作成し、年2回夜間想定を含む火災訓練を行っており、消防署の参加もあり、職員全員が災害時対応を身につけられるよう避難誘導・消火・通報訓練など周知している。地域住民の参加も得ている。非常用食料は一部事業所内に備蓄、隣接施設に備蓄されている。	災害時に事業所内に閉じ込められた場合を想定し、利用者や職員の安全・安心のため、事業所内に数量を確保し備蓄して欲しい。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様へのケア時、場所や声の大きさ、言葉かけ等、自尊心を傷つけないよう、またプライバシーへの配慮も行い支援している。ミーティング時には、利用者様に対する言葉遣いや対応について話し合い、職員の意識向上を図っている。採用時には、個人情報取り扱いの宣誓書を交わしている。	定期的に守秘義務などプライバシー保護について研修を行っている。失禁された際、さりげない声かけなど自尊心を傷つけないよう対応している。職員入職時に「守秘義務」の宣誓書を提出してもらっており、利用者の方に対し尊厳を持って対応できるよう日々努めている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事、入浴、排泄、やってみたい事等、その都度、利用者様に思いや希望を伺い、意向に沿えるよう支援している。意思表示し難い利用者様には表情や、選択しやすいような声掛けを行い希望を把握できるように努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の利用者様の心身の状態を把握し、それぞれのペースでメリハリのある一日を過ごして頂けるように声掛けを行っている。一人でテレビ視聴される方、気の合う方同士、会話を楽しみたい方等、居心地の良い環境作りに努めている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一回、散髪の出張サービスを利用して、好みの髪型にカットされている。衣類は利用者様の希望される服を季節に応じて選んで頂いている。意思表示し難い利用者様は、ご家族から好みの色や服装等を伺って、その人らしいおしゃれが出来る様支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様が食べたいと言われるお菓子を皆さんと一緒に手作りしている。食事は一人ひとりの好き嫌いを把握し、苦手な物でも食べ易く工夫している。お正月や敬老会等の行事食や旬の食材を使ったメニューを提供し、テーブルにはスタッフがついて和やかな食事時間となるよう支援している。	系列施設の管理栄養士より献立され、昼・夕食は配食サービスを利用されている。利用者の方にはトレイや食器拭きなどお手伝いをして頂き、日頃から好みを聞く等しており、季節の変化がわかるメニューを提供している。誕生会には利用者全員に誕生ケーキが届けられ食事を楽しまれている。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量を記録に残し、栄養、水分の確保が出来ているかの把握に努めている。毎月体重測定を行い、必要に応じて主食の量を調整している。嚥下状態が悪い方にはトロミをつけたり副食はキザミやミキサー食に変えて一人ひとりの状態に合わせて提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促し、能力に応じて仕上げ磨きをしたり介助を行っている。うがいや歯磨きが困難な方には、歯磨き粉は使用せず、緑茶で行うことで殺菌作用や飲み込まれても大丈夫なように緑茶使用している。また必要に応じて口腔スポンジを使用し口腔内の清潔保持に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録し、一人ひとりの排泄パターンを把握している。個々に合わせ声掛けを行い、できるだけトイレでの排泄を促し失敗しないよう努めている。拒否がある方にはスタッフ交代したり時間をおいて再度声掛けし誘導している。またオムツ使用の方でも、排便のみトイレに座ってもらい気持ちよく排泄してもらえるよう支援している。	トイレは各ユニットに3ヶ所ずつ設置され、職員は排泄チェック表に個別に毎日記録している。職員全員が排泄チェック表の確認で、個々の利用者の排泄パターンを把握しており、自立排泄を促しながら、声かけ・介助をしている。パッドのつけ方も工夫してパッドの枚数が減るなど改善が見られている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄習慣を把握し、量や形状を観察し記録を行い下剤の調整を行っている。また自然排便を促す為に、レクリエーションや歩行訓練を行い身体を動かす機会を多く持てるようにし、便秘予防に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴チェック表を作成し、本人の希望やタイミングに合わせて個々に浴った入浴の支援をしている。意思疎通の困難な方で、体力面を考慮し必要に応じて入浴日を決めている。入浴拒否がある方は、相性の合うスタッフがいない時に入浴してもらう等、無理のないよう支援している。	基本的には午前中に週3回の入浴だが、本人の希望やタイミングに合わせて入浴の支援をしている。拒否のある方は世間話をしながらタイミングをみて浴室に誘導している。入浴チェック表を作成して個々に浴った入浴に繋げている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動やレクリエーションを実施し、夜間の安眠確保できるよう努めている。利用者様に応じて今まで布団での臥床の習慣がある方にはベッドではなく、布団で休んでもらっている。また、昼間も一人ひとりのその日の体調や気分に合わせていつでも休息できるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服用している薬の内容を把握することで、利用者様の症状や変化に気づけるようにしている。また、医療関係者へ情報提供し服薬調整を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでの生活歴や得意な事を把握し、一人ひとりのできる力に合わせて洗濯物たたみや茶碗拭き等を手伝ってもらっている。現在コロナ感染予防の為、外出支援は中止しているが、天気の良い日はウッドデッキにて日光浴をしたり、毎月おやつ作り等の行事を設け、楽しみを持ってもらうよう努めている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩に出かけたり、月行事では季節ごとで内容を企画し、戸外へ出かけられるよう支援していたが、現在コロナ感染予防の為、外出支援が行えていない。	以前は、バスバイクや日帰り旅行、月1回程度季節のお花見、ドライブなど計画していたが、コロナ禍で、外出はできない状況であり、天気の良い日は屋外のウッドデッキに出て、日常的に外気に触れるなどを支援している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金の管理ができる方はおらず、ご家族より預かり、こちらで管理している。本人より購入希望品があれば、代行して預り金より支払っている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より依頼があれば電話をかけたり、手紙等がくれば手渡しして、読むのが難しい方には代読の支援を行っている。電話がかかれば取り次ぎを行っているが、ご家族から電話をかけられる事が多く、静かにゆくり話すことができるよう支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は天窓から自然光が入り、明るく開放的な雰囲気になっており、壁には季節の飾り絵を掲示して、季節感を感じてもらえるようにしている。レクリエーションや食事の時間等、その状況に合わせてBGMを流し、居心地の良い空間となる様に工夫している。	天窓からの光が入り、採光がよく、開放感のある落ち着いた空間となっている。毎月、利用者と一緒に制作した季節を感じられる作品が壁に掲示されており、リビングにはテレビ・温度・湿度計・加湿器・空気清浄機など置かれ、快適に、居心地よく過ごせるように工夫されている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	南側のベランダや玄関先にはベンチを設置して、日差しが柔らかい日などには外の空気に触れやすいようにしている。フロアでは気の合う利用者様同士、おしゃべりを楽しんだり、独りのんびりと外の景色を眺められるよう思い思いに過ごせるよう居場所作りの工夫をしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好みを配慮し、家具や寝具、洋服等、今までの生活スタイルに極力近い形にしており、家族との写真も飾ったりと、利用者様が落ち着いて生活できるように配慮している。	居室内はベッド、エアコン、カーテンが備え付けられている。使い慣れた家具や寝具、テレビ、位牌など持ち込まれ、写真や小物などなじんだ物を自由に持ち込んで、飾ったりされており、居心地よく過ごせるように工夫されている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内はバリアフリーにし、トイレや浴室、脱衣場には適所に手すりを配置し、利用者様が安全に生活できるような造りになっている。またトイレや浴室の表示を分かりやすくする事で、認識間違いを防げるよう工夫している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
			○	③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている		
			○	②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は目につく所に掲示し、スタッフ全員が内容を理解し共有して実践に繋げている。相談に見えた方や入居を希望される方にも理念について説明を行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として町内会に加入し、月末の日曜日には公民館・お宮掃除にスタッフが交代で参加し、地域の人との交流を行っている。またデッキで日光浴をしている時に、地域の方が通り掛かれる時には挨拶を交わしている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年は新型コロナウイルスにより、施設では面会の自粛を行い、外出も出来ない状況になり、毎年、依頼を受けていた高等学校福祉学科の実習も中止になり、地域の方や高校生との交流も出来なかった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、利用状況、行事報告、内部研修、外部研修、その他、必要事項を報告し委員の方と質疑応答を行っている。提案などについて、サービスの向上に繋げている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議委員の市役所高齢者福祉係の方、包括支援センターの方には運営推進会議の場で交流を図っている。また、福祉係の方とはキャラバンメイトでも交流の機会を持っている。生活保護の方については、保護係の担当者とは、月1回は顔を合わせて確認を行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議の場で身体拘束の研修会や、身体拘束適正化検討委員会での会議内容を伝えて理解を深めている。玄関にはチャイムが鳴るセンサーを設置し、センサーが鳴れば直ぐに確認を行っている。見守り担当者を明確にする為に赤色の紐を肩から掛け、時間帯により交代している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	全体会議の場で高齢者虐待について研修を行い、身体の虐待は勿論の事、言葉の虐待においてもスタッフ一人ひとりが、しっかり自覚を持って、虐待の言葉と確認した時には、その場で注意をしている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体会議の場で権利擁護の研修を行い、再確認を行っている。玄関には成年後見人制度の冊子を置いて情報提供をしている。利用者やご家族に、当方から説明する事は無いが、現在、施設には1名の方に後見人が付かれ、身寄りがなく必要により連絡を取り合い支援を行っている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書については、わかり易く丁寧に説明を行っている。料金改定時は別途、書式により改訂前と改訂後が分かり易く記述したものを作成し、利用者、ご家族に説明を行い、了承を得てから署名、捺印を頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来館された時には、状況や状態などについて説明を行い、利用者やご家族から意見や要望を出された時には、直ぐに検討を行い対応している。外部者には運営推進会議を通じて各委員に説明し、意見などを伺っている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日、朝の申し送り時や全体会議時には、意見を聞く機会を設けている。日常から意見を聞きおり、直ぐに実行が必要な事案については、その場でスタッフに伝えたり、公休者には連絡帳で確認出来る様にしている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフが向上心を持って働けるように努めている。年に2回自己評価を行い、目標を持つ事でケアの向上に繋がるようにしている。また希望休や有給を利用する事で、働きやすい職場の環境作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用時、性別・年齢・宗教など個人的な事は重視せず、既婚者や出産育児中のスタッフなど誰でも安心して働けるように職場の環境や条件の整備に努めている。また社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるように配慮している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権尊重は介護における基本と捉えている。毎月実施している、全体会議の中で人権尊重に対する研修会を開いたり、日々の申し送り中でも職員全員が自らの事として捉え、考える機会を設けている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフの経験年数や技術に応じて外部研修を選定し参加している。研修内容は出張復命書により、目的・要件、経過・結果、意見・所感について記述し、内容については精査し、指導を行う事もある。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスにより、他事業所の方と交流は殆ど出来なかった。直に会う機会は減少したが、今までのネットワークにより、電話などでやり取りを行う事で関係性は保たれている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学や訪問していただき、本人と面談を行い、アセスメントを踏まえた上でコミュニケーションをとりながら不安、要望等を伺い、本人との関わりを多く持ち安心していただけるよう努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と面談を行い、困っている事や要望などをお聞きし、ご家族の思いに添うよう、その要望を職員で共有している。また、こまめに本人の様子を報告し、ご家族との関係作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様にとって何が本人、ご家族と一緒に考え、小規模多機能やデイサービス、他施設の見学、説明も行き、幅広く情報提供を行い、選択肢を広げるよう努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と一緒に洗濯たみや食事の片づけ（茶碗拭き）等を行い、共に生活していることを念頭に置き、相互関係の元、日々生活の楽しみ、喜びを共感する様努めている。		
21	—	○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にはご家族へ本人の状態を報告し、必要に応じて支援の提案を行い、ご家族の意向に沿って、利用者様を共に支えていけるようにしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や親しい方との面会が困難である場合は、手紙のやりとりや電話で会話していただき、馴染みの人とのつながりを維持できるように努めている。馴染みの場所へは、感染予防の為、外出控えており出来ていない。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格や相性に配慮し、また要望等を取り入れ、座っていただく席の位置を決め、利用者同士支え合い、楽しく過ごせるよう支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、ご家族から近況報告を得たり、入院で退所された方にも、いつでもまた相談に来ていただけるようお声かけをしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様と関わる中で得た情報を記録に残し、情報を共有し利用者様の思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難な方は、表情や仕草等でくみ取り、職員間で検討し本人の思いに寄り添えるよう努めている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される時には、ご家族より情報を得ておりフェイスシートに記入し情報の共有に努めている。また、本人やご家族とのコミュニケーションをとる中で新しく得た情報は申し送りノートに記入し、随時追加して共有している。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態変化を観察し記録に残したり、月に1回の会議で一人ひとりの現状報告を行い、情報を共有し職員全体で把握している。又、一人ひとりの身体状況を見ながら休んで頂いたり、洗濯たたみ等のお手伝いをお願いしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族からの思いや意向を尊重した上で、主治医や連携している訪問看護とも話し合いを行い、職員を踏まえ、それぞれの意見を取り入れて介護計画を作成している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には、日々の生活状況を記入して職員間で情報を共有し、利用者様の生活や心身の状態を把握するようにしており、実践や介護計画に反映しながら見直しもしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様やご家族から、日々変化するニーズに対して出来る限り、柔軟に対応させていただいている。また、後見人がいる方やご家族が遠方に居られる方には、必要物品(衣類等)の購入代行を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	在宅生活をされていた時の友人の方の面会や近隣の神社に参拝しに行ったり、日頃の散歩で、ご近所の方と挨拶を交わし楽しみのある生活ができるよう支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に協力医の説明を行い、今までのかかりつけ医を継続するか本人やご家族に選択してもらっている。ご家族が付き添い受診される場合には、日々の状態を手紙にし情報提供を行っている。職員間や医療機関との連携を図りながら、適切な医療を受けられる様に支援している。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日々の関わりの中での変化や気づきを看護師や医療連携している訪問看護に伝え、情報交換を密に行い、個々の利用者様が適切な看護の支援を受けられるようにしている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院する際、利用者様やご家族がストレスを軽減できるよう相談しながら、本人に関する情報の提供やケアについて話し合っている。退院時はスムーズに退院できるように、病院、ご家族と話し合い関係作りを努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	段階ごとにご家族やかかりつけ医との意向を確認し対応を行い、利用者様を尊重しながら支援を行っている。全職員で話し合い、最期までその人らしい生活ができるよう支援している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の状態の急変や事故発生等、予測できる所は職員、医療関係者と連携を取り、実際の場面で活かせる様、勉強会などを行い、知識や技術を職員で深めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火・避難訓練を消防吏員の派遣を伴う総合訓練を1回、施設のみで行う部分訓練を1回の年2回訓練を行っている。新規の職員には、実施方法を習得させる為に、初期消火や通報の役割を持たせている。訓練後には消防署より、消防訓練実施結果について全体の評価、推奨事項や反省点を挙げて頂き、記録して今後に活かしている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様へのケア時、場所や声の大きさ、言葉かけ等、自尊心を傷つけないよう、またプライバシーへの配慮も行い支援している。ミーティング時には、利用者様に対する言葉遣いや対応について話し合い、職員の意識向上を図っている。採用時には、個人情報取り扱いの宣誓書を交わしている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事、入浴、排泄、やってみたい事等、その都度、利用者様に思いや希望を伺い、意向に沿えるよう支援している。意思表示し難い利用者様には表情や、選択しやすいような声掛けを行い希望を把握できるように努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の利用者様の心身の状態を把握し、それぞれのペースでメリハリのある一日を過ごして頂けるように声掛けを行っている。一人でテレビ視聴される方、気の合う方同士、会話を楽しみたい方等、居心地の良い環境作りに努めている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一回、散髪の出張サービスを利用して、好みの髪型にカットされている。衣類は利用者様の希望される服を季節に応じて選んで頂いている。意思表示し難い利用者様は、ご家族から好みの色や服装等を伺って、その人らしいおしゃれが出来る様支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様が食べたいと言われるお菓子を皆さんと一緒に手作りしている。食事は一人ひとりの好き嫌いを把握し、苦手な物でも食べ易く工夫している。お正月や敬老会等の行事食や旬の食材を使ったメニューを提供し、テーブルにはスタッフがついて和やかな食事時間となるよう支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量を記録に残し、栄養、水分の確保が出来ているかの把握に努めている。毎月体重測定を行い、必要に応じて主食の量を調整している。嚥下状態が悪い方にはトロミをつけたり副食はキザミやミキサー食に変えて一人ひとりの状態に合わせて提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促し、能力に応じて仕上げ磨きをしたり介助を行っている。うがい困難な方には、歯磨き粉は使用せず、緑茶で行うことで殺菌作用や飲み込まれても大丈夫なように緑茶使用している。また必要に応じて口腔スポンジを使用し口腔内の清潔保持に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録し、一人ひとりの排泄パターンを把握している。個々に合わせ声掛けを行い、できるだけトイレでの排泄を促し失敗しないよう努めている。拒否がある方にはスタッフ交代したり時間をおいて再度声掛けし誘導している。またオムツ使用の方でも、排便のみトイレに座ってもらい気持ちよく排泄してもらえるよう支援している。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄習慣を把握し、量や形状を観察し記録を行い下剤の調整を行っている。また自然排便を促す為に、レクリエーションや歩行訓練を行い身体を動かす機会を多く持てるようにし、便秘予防に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴チェック表を作成し、本人の希望やタイミングに合わせて個々に浴った入浴の支援をしている。意思疎通の困難な方で、体力面を考慮し必要に応じて入浴日を決めている。入浴拒否がある方は、相性の合うスタッフがいる時に入浴してもらう等、無理のないよう支援している。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動やレクリエーションを実施し、夜間の安眠確保できるよう努めている。利用者様に依りて今まで布団での臥床の習慣がある方にはベッドではなく、布団で休んでもらっている。また、昼間も一人ひとりのその日の体調や気分に合わせていつでも休息できるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服用している薬の内容を把握することで、利用者様の症状や変化に気づけるようにしている。また、医療関係者へ情報提供し服薬調整を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでの生活歴や得意な事を把握し、一人ひとりのできる力に合わせて洗濯物たたみや茶碗拭き等を手伝ってもらっている。現在コロナ感染予防の為、外出支援は中止しているが、天気の良い日はウッドデッキにて日光浴をしたり、毎月おやつ作り等の行事を設け、楽しみを持ってもらうよう努めている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩に出かけたり、月行事では季節ごとで内容を企画し、戸外へ出かけられるよう支援していたが、現在コロナ感染予防の為、外出支援が行えていない。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金の管理ができる方はおらず、ご家族より預かり、こちらで管理している。本人より購入希望品があれば、代行して預り金より支払っている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より依頼があれば電話をかけたり、手紙等がくれば手渡しして、読むのが難しい方には代読の支援を行っている。電話がかかれば取り次ぎを行っているが、ご家族から電話をかけられる事が多く、静かにゆっくり話すことができるよう支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は天窓から自然光が入り、明るく開放的な雰囲気になっており、壁には季節の飾り絵を掲示して、季節感を感じてもらえるようにしている。レクリエーションや食事の時間等、その状況に合わせてBGMを流し、居心地の良い空間となる様に工夫している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	南側のベランダや玄関先にはベンチを設置して、日差しが柔らかい日などには外の空気に触れやすいようにしている。フロアでは気の合う利用者様同士、おしゃべりを楽しんだり、独りのんびりと外の景色を眺められるよう思い思いに過ごせるよう居場所作りの工夫をしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好みを配慮し、家具や寝具、洋服等、今までの生活スタイルに極力近い形にしており、家族との写真も飾ったりと、利用者が落ち着いて生活できるように配慮している。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内はバリアフリーにし、トイレや浴室、脱衣場には適所に手すりを配置し、利用者が安全に生活できるような造りになっている。またトイレや浴室の表示を分かりやすくする事で、認識間違いを防げるよう工夫している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)						
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
			<input type="radio"/>	①毎日ある	<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある	<input type="radio"/>	④ほとんどない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		